

三次市でたまねぎ定植作業順調

【平成 28 年 12 月 16 日掲載】

JA 三次では5年前より、法人ほ場の効率的な利用を図るため、たまねぎ栽培を推進しています。三次市内の農業生産法人、認定農業者ら7法人が計1haでたまねぎの定植作業を11月中旬から月末にかけて順次行いました。

11月17日には、三次市大田幸町の農事組合法人田幸西部(黒瀬 健郎(くろせけんろう)代表理事、構成員35戸+JA)が約18aを、同月29日には同市糸井町の農事組合法人糸井(千崎 正博(せんざきまさひろ)代表理事、構成員22戸+JA)が約6aを定植しました。

(農)田幸西部では構成員3名がJA三次営農指導員らの支援を受け、半自動移植機を使用し、マルチを設置したほ場で定植作業を進めました。苗は細めでしたが、育苗から定植後の病害虫防除、雑草対策及び肥培管理を徹底しています。

前作(平成27年秋定植～28年初夏収穫)は、暖冬で全体的にべと病の発生が多く、肥料切れから抽苔が発生するなど栽培に苦労しました。

JA三次では、今作の目標収量を30tとし、翌年6月から広島市中央卸売市場東部市場への出荷を目指しています。



【半自動移植機によるたまねぎ定植作業】